

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成 23 年 2 月 10 日 (2011.2.10)

【公開番号】特開 2009-196715 (P2009-196715A)
 【公開日】平成 21 年 9 月 3 日 (2009.9.3)
 【年通号数】公開・登録公報 2009-035
 【出願番号】特願 2009-104322 (P2009-104322)
 【国際特許分類】

B 6 5 B 1/06 (2006.01)

B 6 5 B 37/02 (2006.01)

A 6 1 J 3/00 (2006.01)

【F I】

B 6 5 B 1/06

B 6 5 B 37/02

A 6 1 J 3/00 3 1 0 E

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 12 月 20 日 (2010.12.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 包分の錠剤を収容する錠剤収容枡が、前後方向に複数列、横方向に複数行設けられた錠剤収容部と、

前記錠剤収容枡の下端開口から前記錠剤を取り出し、かつ取り出した前記錠剤を 1 包分ずつ払い出す錠剤払出部と、

前記錠剤払出部により払い出された前記錠剤を 1 包分ずつ包装する包装部と

を備える薬剤包装装置において、

前記錠剤払出部は、

前記錠剤収容部の下側に配置され、前記錠剤収容枡の前記下端開口を開閉する開閉機構と、

前記開閉機構の下側に配置され、前記開閉機構により開放された前記錠剤収容枡の前記下端開口から落下する前記錠剤を収容する錠剤払出枡が前記錠剤収容枡に対応して複数列かつ複数行設けられ、前記錠剤払出枡の行方向に移動可能である、錠剤払出部材と、

個々の前記錠剤払出枡の下端開口に設けられ、前記錠剤払出枡の前記下端開口を閉鎖して前記錠剤払出枡内に前記錠剤を保持する閉鎖位置と、前記錠剤払出枡の前記下端開口を開放して前記錠剤を前記包装部へ落下させる開放位置とに移動可能である、上面に表面粗度を高める加工を施した底板と、

前記錠剤払出部材の下側に配置された固定板と、

前記錠剤払出部材を前記錠剤払出枡の前記行方向に移動させる駆動装置と

を備え、

前記駆動装置による前記錠剤払出部材の移動により、前記錠剤払出枡が前記固定板の先端に到達すると、前記底板が前記閉鎖位置から前記開放位置へ移動する、薬剤包装装置。

【請求項 2】

前記底板は基端側に前記払出部材へ回転自在に連結された軸部を備え、先端側が自由端であり、

前記固定板は前記先端に複数の段部を備え、

前記駆動装置による前記錠剤払出部材の移動により、前記錠剤払出枡が対応する前記段部に達すると、前記底板が前記閉鎖位置から前記開放位置へ前記軸部回りに回転する、請求項 1 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 3】

前記底板の上面は、前記表面粗度を高める加工として、中央部を高くして上向きに膨出する膨出部と、この膨出部の上面に設けられた複数のリブ状部を備える、請求項 1 又は請求項 2 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 4】

前記底板の上面は、前記表面粗度を高める加工として、複数の半楕円球状の膨出部を備える、請求項 1 又は請求項 2 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 5】

前記底板の上面は、前記表面粗度を高める加工として、不規則な凹凸部を備える、請求項 1 又は請求項 2 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 6】

前記開閉機構は、前記錠剤収容枡に対応する複数の錠剤通過孔が形成され、上面が前記錠剤収容枡の底部を構成する閉鎖位置と、前記錠剤通過孔が前記錠剤収容枡と連通して前記錠剤収容枡の下端開口を開放する開放位置とに移動する一対のシャッタを備え、

前記シャッタの閉鎖部の上面に表面粗度を高める加工を施している、請求項 1 から請求項 5 のいずれか 1 項に記載の薬剤包装装置。

【請求項 7】

前記シャッタの閉鎖部の上面は、前記表面粗度を高める加工として、複数の扁平な楕円球状の膨出部を備える、請求項 6 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 8】

前記シャッタの閉鎖部の上面は、前記表面粗度を高める加工として、複数の直方体状の突起を備える、請求項 6 に記載の薬剤包装装置。

【請求項 9】

前記シャッタの閉鎖部の上面は、前記表面粗度を高める加工として、不規則な凹凸部を備える、請求項 6 に記載の薬剤包装装置。